

V 今後の課題

感染症分野では、新興・再興感染症の出現や重大な感染症の発生リスクなど、複雑かつ多様な課題への包括的な対応が求められている。新型コロナウイルス感染症のパンデミックの経験を踏まえ、令和 7 年度から急性呼吸器感染症（Acute Respiratory Infection：ARI）が五類感染症定点把握疾患に追加され、全国的なサーベイランスが開始された。

当所では全国に先駆けて、令和 5 年 5 月 8 日から県事業として実施要領に基づく ARI 病原体サーベイランスを開始しており、現在の ARI サーベイランスにおいても病原体サーベイランスが中核的な役割を担っている。当所の ARI 検体数は、令和 5 年度が 3,220 件、令和 6 年度が 1,589 件であったのに対し、法令に基づく運用が開始された令和 7 年度は 8,675 件となり、大幅に増加した。ARI サーベイランスは、県内で流行する急性呼吸器病原体の動向を年代別及び時期別に把握するための重要な感染症情報を提供しており、感染症対策の推進に寄与している。また、本県の取組は全国的にも先進的な事例として位置付けられており、医療機関等からの期待も大きい。

一方で、麻しん、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、腸管出血性大腸菌感染症、百日咳や結核等の感染症対応業務も継続して実施する中で、ARI サーベイランスは当所業務において大きな比重を占めている。本サーベイランスは平時からの健康危機管理体制の強化を図る上でも重要な取組であり、検査、情報解析及び情報提供を一体的に実施する体制の下、ウイルス担当を中心として感染症情報センターが主体的に取り組んでいる。また、学会シンポジウムでの発表や厚生労働科学研究への参画を通じて、知見の集積及び技術的向上にも努めている。

令和 5 年の地域保健法改正に伴う地方衛生研究所の機能強化への対応を進めるためには、ARI サーベイランスに象徴されるような微生物学及び疫学等の専門知識を有するとともに、地域医療機関をはじめとする関係機関との連携・調整及び説明能力を備えた中核的人材の確保・育成が不可欠である。また、平時から専門性の向上を図るとともに、検査機器等の計画的な整備・更新を進める必要がある。

さらに、健康危機発生時には、平時から構築した人的ネットワークや技術的知見が重要な役割を果たすことから、令和 7 年度に発足した国立健康危機管理研究機構をはじめ、地方衛生研究所等との間において、サーベイランスや高度化する検査技術に関する専門的連携を一層強化していくことが重要である。